特集　災害に備える！3つの助

災害による被害をできるだけ少なくするには、「自助」「共助」「公助」が重要だと言われています。

もしも災害が起こったら・・・。あなたは「助けられる人」でなく「助ける人」になれますか？

自然災害発生。その時、あなたは？

自助

一人一人が、自ら身を守ること。

共助

地域や身近にいる人同士が助け合うこと。

公助

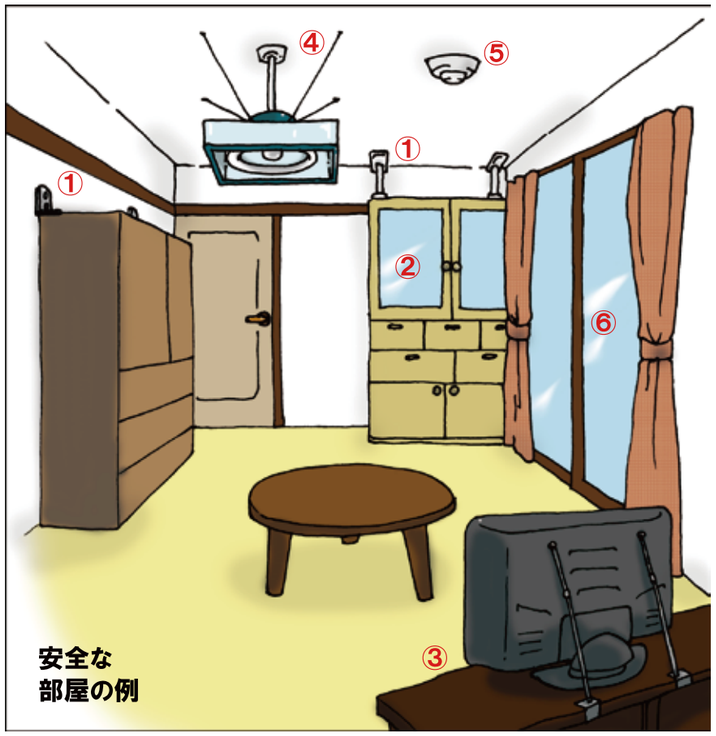
国や地方公共団体などによる、防災や救済等の取組みのこと。

自らを助ける

「自助」に取り組むためには、災害に備え自分の家の安全対策をしておくこと、災害にあった際の身の守り方を知っておくこと、そして、生き延びるために水や食料等を備えておくことが必要です。

家の中の安全対策

家具は倒れるもの、ガラスは割れるものと考え、大きな地震に備え、安全対策をしましょう。



安全な部屋の例

① タンスや本棚などの背の高い家具は、突っ張り棒やL字金具で固定する。

② 食器棚は、扉に開放防止金具を取り付け、棚には滑り止めシートを敷く。

③ テレビは、できるだけ低い位置に設置し、金具やロープ、耐震マットなどで固定する。

④ コード1本で吊るす照明器具は、鎖や金具で数か所留める。また蛍光灯は、蛍光管の両端を耐熱テープで留める。

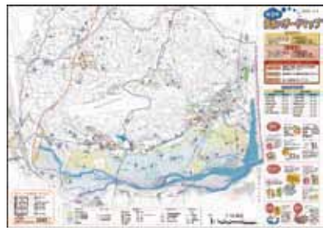
⑤ 住宅用火災警報器を設置する。

⑥ 窓ガラスは、飛散防止フィルムを屋内側に貼る。

公的機関の援助等

町では、次のような防災・減災のための取組みを行っています。ぜひ活用してください。

ハザードマップの作成



洪水・土砂災害用と、津波用の2種類のハザードマップを作成しています。新富町ホームページからも見ることができます。

メール配信サービス

登録することで、左図のような防災・防犯情報メールをお受け取りいただけます。

登録は、新富町ホームページからお願いします。

避難タワーの整備

今年4月、横江地区に、避難タワーと避難所の機能を備えた消防機庫を整備しました。

自主防災組織防災資機材整備

自治会等が自主的に防災活動を行うための組織（自主防災組織）に対し、発電機やテントなどの防災資機材等貸与を行っています。

建築物耐震診断等事業費補助

災害に強いまちづくりを目指して、町内にある建築物の耐震診断、改修設計、改修を実施する所有者に対し、その費用の一部を補助する取組みです。対象となる住宅や補助内容等については、新富町ホームページをご覧ください。

◎建築物耐震診断等事業費補助については都市建設課（☎33・6017）へ、それ以外に関しては防災基地対策課（☎33・6061）へお問い合わせください。

地震発生時の身の守り方

地震はいつどこで起こるか分かりませんが、気象庁の「緊急地震速報」を活用することで、地震に備えるわずかな猶予ができます。

- **家の中では**
  頭を保護し、大きな家具から離れ、机の下などに隠れる。出来れば窓を開けたり火の始末をしたりする。
- **商業施設などでは**
  施設の係員の指示に従い、出口や階段に殺到しない。陳列棚や照明の下からは、できるだけ離れる。
- **エレベーターでは**
  最寄りの階で速やかに降りる。
- **街にいるときは**
  ブロック塀や自動販売機等の倒れそうなものから離れ、看板等の落下に注意する。
- **自動車運転中の時は**
  ハザードランプを点灯させながら徐行し、周りの車に注意を促す。道路左側に停車したら、そのまま車内で待ち、揺れが収まったら、ドアをロックせずキーを付けたまま徒歩で安全な場所へ移動する。
- **津波警報が出た時は**
  速やかに、高台などに避難する。特に、川や海岸付近にいるときは、地震が発生した時点ですぐに離れる。

早めの判断と行動を！

備蓄品・非常持ち出し品

ライフラインが停止した時の備蓄や避難所へ行く時の持ち出し品は、普段から用意しておくことでいざという時に役立ちます。

- □ 飲料水（一人1日3ℓを3日分）
- □ 食品（一人につき最低3日分）
- □ 下着・衣類
- □ トイレットペーパーやティッシュ
- □ マッチ、ろうそく
- □ カセットコンロ

※物を洗ったりトイレを流すための水も、ポリタンクなどで用意しましょう。

家族で連絡方法を決める

家族が別々の場所で被災したときは、お互いの安否が確認できるよう、安否確認方法や集合場所などを話し合っておきましょう。

こちらも参考にしてください。防災基地対策課で配布しています。